

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針		
2 高い志を持って将来への夢と希望を育て、生徒一人ひとりの能力や適性に合った進路目標の実現を図る生徒を育成する。	① 進路意識の高揚	1	進路課が発行する『進路の手引き』をホームルーム活動や面談に活用し、進路意識の高揚に努める。	『進路の手引き』のホームルーム活動や面談での活用回数 年1回以上	『進路の手引き』のホームルーム活動や面談での活用回数は全学年平均で年1.3回(前年度年1.3回)であった。進学・就職等の進路活動をサポートするため、進路活動に必要な基本的事項や最近の進路状況等をまとめた『進路の手引き』を作成し在校生に配布した。	B	(評定)	進学実績を見ても学校が生徒の進路実現に尽力していることが伺える。西部の大学進学を支える高校として更に尽力して欲しい。総合学習での組織化と普通化での探究活動の成果も伺える。キャリア教育も含めこれからの取り組みに期待している。	進路選択の指針となる様々なデータが詰まっており、生徒や保護者に活用してもらおうことを目的にしている。進路の行事や進路学習・面談等でより活用されるように働きかけるとともに、内容を吟味してより見やすいものになる工夫をする。	
		2	進路ガイダンス・進路講演会を有効的に活用し、生徒の進路意識の高揚につなげる。	生徒・教職員アンケート「進路ガイダンス・進路講演会が役に立った」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒75%(前年度75%)、教職員100%(同90%)であった。進路ガイダンス・進路講演会の実施回数は、1・2年生が年3回(同3回)、3年生が年2回(同2回)であった。	B				生徒が自らの進路や生き方を真剣に考える契機となるよう、人選や内容を十分に検討する。
	② きめ細かな進路相談の実施	1	個別面談を適宜実施し、生徒が進路について具体的・主体的に考え行動する姿勢を育てる。	個別面談の実施回数 年5回以上	個別面談の実施回数が年5回以上のホームルーム担任は76%(前年度80%)だった。各学期当初の面接週間、夏休み中の三者面談、その他適宜機会を設けて個別面談を実施した。	B	B	(所見)	補習の希望者人数の減少からくる補習受講者の満足度の低下が心配であるが、県外からのスーパーティーチャー招聘や県外との高校との合同補習など現在行っている取り組みを更に充実させて欲しい。	個別面談の中で生徒の学習や進路の悩みにしっかりと向き合い、適切な時期に適切な指導ができるようにする。
		2	三者面談や進路保護者会を実施し、保護者の進路に対する要望の把握に努める。	保護者アンケート「三者面談で担任は保護者の意見や相談を聴いてくれた」80%以上	保護者アンケートの肯定的評価は94%(前年度95%)であった。PTA総会・夏休みの三者面談・進路保護者会等でそれぞれ実施した。	A				
	③ 体系的な進路指導の推進	1	総合的な学習の時間やホームルーム活動等において、段階的・系統的な進路指導を実践する。	生徒アンケート「総合的な学習の時間が進路選択に役に立った」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は67%(前年度62%)であった。総合的な学習の時間やホームルーム活動等を行う進路学習は、3年間の進路の流れに合わせて学年の段階に応じた資料を活用して行った。	A	B	きめ細かな進路相談の実施に努め、進路の早期決定を支援した。また、校内実力テストを充実させ、ホームページによる本校教育活動の情報発信にも努めた。総合学習を本年度より普通科、探究科共に体系的に取り組みキャリア教育をスタートした。その結果がアンケート結果にも表れ始めている。今後一層体系的に総合学習に取り組むことにより、生徒の進路意識の向上に努めたい。	総合的な学習の時間やホームルーム活動は進路学習の上でも貴重な時間である。生徒が自らを見つめ、自分に適した進路を考える場となるよう、内容や方法を再検討する必要がある。	
		2	年度初め・年度末に進路課会・学年会を開催し、3年間を通した系統的・計画的な進路指導ができる方策をまとめる。	教職員アンケート「3年間を通した系統的・計画的な進路指導ができていく」80%以上	教職員アンケートの肯定的評価は90%(前年度87%)であった。進路課会や学年会の中で、スタディーサポートや模試、進路行事の内容等を再検討し、進路規定の見直しも行った。	A				進路意識の形成から進路決定・実現に至るまで、3年間を通した系統的な学習指導・進路指導の在り方を考えていく。
	④ 進路の早期決定と進路室の有効活用	1	各学期に進路希望調査を実施し、進路の早期決定と計画的・意欲的な学習への支援を促進する。	教員アンケート「進路希望調査を進路指導に生かすことができた」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は94%(前年度93%)であった。各学期初めに進路希望調査を実施し、その結果を面接週間での個別面談や、三者面談・学力検討会等で活用した。	A	B	学習習慣が身につかない生徒にはその原因や対策を考えさせる指導も必要である。調査や面談を通して、学習法の助言だけでなく生活面の助言や精神面の支援も行い、学習意欲を向上させるための動機づけや手だてをより工夫していく。	進路室利用者は毎年3年生が中心となるが、1・2年生にも進路調べや相談のための進路室利用をさらに促したい。	
		2	進路室の情報提供機能を充実させるとともに、昼休み・放課後・休日等にも開放し、利用者数の増加を目指す。	生徒アンケート(3年)「進路室を年3回以上利用した」80%以上	生徒アンケート(3年)で「進路室を年5回以上利用した」と答えた生徒は78%(前年度74%)であった。自習用ブースの利用者が増えた。また、昼休み・放課後等の面接・小論文指導や、進路調べ等で進路室を利用する生徒が多かった。	B				今後も校内実力テストを形骸化させず、真に実力をつけさせるテストにするための改善に努める。また、生徒が校内実力テストを軽視せずにテスト勉強にしっかりと取り組むよう指導する。
	⑤ 校内実力テストの充実と校外模試の活用	1	校内実力テストについて、出題方法や内容を工夫し、学力向上に繋げるとともに、進路指導に活用する。	教員アンケート「校内実力テストの出題で工夫した」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は96%(前年度100%)であった。出題範囲や内容も改善して、生徒が目標を明確に持ってテスト勉強ができるようにした。また、生徒がテスト勉強に意欲的に取り組むよう、テスト結果を各学期の成績に加味している。	A	B	学力検討会を年間計画の中に定期的に組み入れ、学年や教科で確実に実施できるよう改善する。	教員の研修や出張が多いため、特に長期休暇中の補習の時間割編成や、習熟度別クラスの編成が困難になっている。補習の日程や方法を再検討する必要がある。	
		2	校外模試を学力向上に繋がるよう活用するとともに、データの分析結果を進路指導に生かす。	学年または教科での学力検討会の実施回数 各学期1回以上	学力検討会の実施回数は前年度と同様に1学年が1回、2学年が2回、3学年が各学期1回ずつであった。学力検討会では、生徒の成績や進路希望の状況を詳細に分析し、進路実現のために必要な学力を身につけさせる手だてを学年全体で検討した。	B				長期休暇中の補習については、大学入試改革などの方向性を見極めたうえで、適切な内容を検討する必要がある。外部人材を活用し、内容の充実を図る必要がある。
	⑥ 補習授業の充実	1	年間を通じた補習計画を作成し、学年や教科の目標に応じた放課後の補習授業を実施する。	生徒・教員アンケート「補習授業は充実していた」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒56%(前年度79%)教職員93%(同87%)であった。学期中や長期休暇中の補習を計画的に運営し、生徒の学力に配慮した補習を行った。	C	C	『生徒ニュース』は本校の特色や良さをPRする重要な役割を果たしている。今後も本校のPR・情報発信に役立てたい。	各校務分掌や部活動でさらに適切な情報発信ができるよう、体制を整える必要がある。	
		2	進路目標に応じた長期休暇中の補習を計画し、長期休暇中の学習活動を充実させる。	生徒アンケート「長期休暇中の補習授業は充実していた」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は59%(前年度79%)であった。特別補習の実施回数を増やしたり、3年生補習で受験小論文対策講座を設置するなど、内容の改善に取り組んだ。また、校外の講師を積極的に招聘し、補習の充実に努めた。	C				
	⑦ 進路情報をはじめとした本校教育活動の情報発信	1	『進路の手引き』を発行し、本校生の活動状況や卒業後の進路を生徒・保護者・関係中学校等に情報発信する。	進路の手引きの発行 年1冊	『進路ニュース』を新たに発行した。発行回数は年8回であった。情報発信に一定の効果はあったと思われる。進路の手引きは1回発行した。内容の検討を行い、2割程度の記事を差し替えた。	B	B			
		2	ホームページの更新を積極的に行い、最新の情報提供に努める。	ホームページの更新回数 月平均15回以上	ホームページの更新回数は月平均13回で、ほぼ目標を達成することができた。	B				